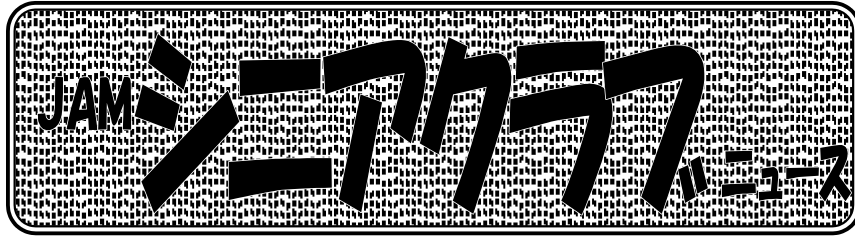


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第200号

発行日 2024年8月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

第3回幹事会を開催 活動方針案をめぐって活発な議論

JAMシニアクラブは7月25日、JAM本都会議室



において第3回幹事会を開催しました。田中副会長の挨拶に続き、大山会長が次の6点にわたり座長就任の挨拶を行いました。

- ①退職者連合は、健康保険証廃止反対の取組みを継続していくことを確認した。
- JAMシニアとしては12月2日の廃止反対に向けた会員の行動を提起したい。
- ②JAMの政治方針にある専守防衛、非核三原則、シブリアンコントロールにもとづき、「核兵器を使わせない」運動に取り組む。
- ③小規模介護事業者が淘汰されて、地方の介護がダメージを受ける訪問介護の基本報酬の引き下げに反対する。

④年金については公費負担の拡大により基礎年金の底上げをはかることが大きな課題である。

⑤2024年度の会員数は6552人となり、2009年の水準に戻ってしまった。改めて組織拡大に向けた取り組みを強化していく。

⑥「郡山りょう」の応援活動に向け、器材を既に展開している。地方シニアの定期総会を機に取組みのスタートをお願いしたい。

次にJAMを代表して、中井書記長からは、①2024春闘では過去最高となるペー8030円を獲得した。大事なものは率ではなく、額であり水準である。個別賃金の取組みをより強化していきたい。②企業事情により他産別に移行する組合

が多く見られたが、JVC・ケンウッド労組はJAMへの一本化を決めた。JAMを離脱した大手労組への働きかけなども含め組織拡大に努力していきたい。②2025年参院選まで1年を切った。JAMの集票力は年々低下しているが、「郡山りょう」必勝に向け、現役として精一杯努力をする

のでシニアの皆さんにも格段の取組みをお願いしたい。との挨拶をいただきました。

協議事項では、2025年度活動方針案、予算案、政策課題WG（ワーキンググループ）の取組み、2025年度定期総会対策の順で議論がすすめられました。

活動方針案は、JAM現役が展開している「教育費負担軽減・奨学金制度改善

に向けたアピール」への協力を追加。政権交代の記載についての修正など一部修正の上、9月6日の定期総会に提案することを確認しました。

政策課題WGの取組みでは、金融資産課税や少子化問題について活発な議論が行われ、今後のWGの取組みに活かしていくこととしました。

退職者連合 第28回定期総会を開催

紛争を終結し平和な世界を、安心できる暮らしを若者へつなごう

7月17日、JAMシニアクラブが加盟する日本退職者連合の第28回定期総会が、東京・連合会館で開催されました。

〈裏面へ続く〉

JAMシニアクラブの機関紙「JAMシニアクラブニュース」は、2007年9月28日に創刊号が発行され、以来17年の月日が流れて、このたび記念すべき200号の発行を迎えることが出来ました。この間、機関紙づくりにご尽力された諸先輩や、投稿をいただいた全国の先輩・同士諸兄に心より感謝を申し上げます。

シニアクラブの結成は200

1年9月です。当

初はレポートタイ

プの「シニアクラ

ブニュース」を発

行していましたが、

当時の事務局長の



田やろう議員にも毎月の原稿依頼をし、快く引き受けてもらいました。70の手習い。完全に一人出来るまでは、これから皆さんの指導と協力が必要で

橋村良夫さんのご努力で今日の新聞タイプのニュースになりました。創刊号の編集後記の中で橋村さんが「現役の好意で『編集長』なるソフトを購入し、津

が、硬くなった『頭』と『手先』をより柔らかにし、月1回の発行をめざしてこれからも頑張ります」と書かれています。橋村さんの意気込みと、現役や津田議員のご厚意とご協力の上に、機関紙発行がスタート出来たのです。

年、2021年と、対面の活動が停止になる時期があり、休刊や、合併号の発行を余儀なくされたことが残念でなりません。毎月の紙面を見て、各地方のシニアクラブの会員が交流を深めている様子に心がなごみ、現役と連携しJAM活動の一旦を担っている姿に心が躍ります。機関紙は本部地方間、また地方同士の情報交換の場でもあります。今後も、JAMシニアクラブが維持・発展をし、機関紙も300号、400号と発行し続けていくために、会員の皆さん、JAM現役の皆さんの各段の協力添えを宜しくお願いいたします。

JAMシニアクラブ

事務局長 大野弘二

へ表面より続く



冒頭人見会長より、「能登半島地震からの一日も早い復旧、復興を政府・自治体に求めていく。核兵器の使用は絶対に認められない。核兵器禁止条約の早期批准を求めるとともに「戦争NO」の声をあげていく。政権交代に向け衆参選挙で連合推薦候補の必勝をめざす。健康保険証の一方的廃止に反対の取組みを継続する」との挨拶がありました。

清水連合事務局長、立憲民主党辻本代表代行、国民民主党舟山参議院議員会長、社会民主党福島党首らの挨拶のあと、議事に入り2024年度運動方針、予算、政策制度要求、第2期アクションプランの議案が提案され、審議のあと満場一致で全議案が可決されました。

代議員からは運動方針に関連して、ジェンダー平等への取組み推進、米兵による少女暴行事件と沖縄基地問題への取組み、夫婦別姓の問題、平和外交を基本とする政権への交代、訪問介護報酬の切り下げ反対、等の発言がありました。

JAMシニアからは大山会長、大野事務局長が役員として、田中副会長、平木事務局次長、河野幹事が代議員として出席しました。

現行の健康保険証廃止に反対する

マイナカードはあくまで任意

JAMシニア

会長 大山勝也

(1) 岸田内閣は、マイナナンバーカードを健康保険証として使う「マイナ保険証」を強引に普及するため、現行の健康保険証を2024年12月2日以降は新規発行をしないと閣議決定しています。新規発行は停止されますが、現行の健康保険証は記載された有効期限までは使用できます。たとえば75歳以上の現行の後期高齢者医療被保険者証は、有効期間が24年8月1日から25年7月31日までです。

また、「マイナ保険証」の押しつけには、マイナンバーカードの取得が強制で

はなく任意であること、認知症患者などには「マイナ保険証」が使いにくいことなどの批判があり、24年12月2日以降、「マイナ保険証」の利用登録をしていない人には、当分の間、申請することなく「資格確認書」が送付されます。「資格確認書」は現行の健康保険証とほぼ変わらないと言われています。

(2) 現行の健康保険証の新規発行停止に対して、日本退職者連合は7月17日の定期総会で、「マイナ保険証」に対する国民の不安が払拭されるまでは、現行の健康保険証の存続を求める自治体議会における意見書採択請願運動を展開し取り組みの強化を図ることを決定しています。

JAMシニアクラブは、マイナンバーカードの取得は本人の選択に基づくという原則を順守し、現行の健康保険証のマイナンバーカードへの置き換えに反対し、改正マイナンバー法の見直しを求めています。

(3) 岸田内閣は、現行の健康保険証と「マイナ保険証」の診療報酬に格差を持ち込み、医療機関や薬局での患者への「マイナ保険証」利用の呼びかけに支援金制度をスタートさせたものの、2024年7月の「マイナ保険証」の利用率は11・13%にとどまりました(厚労

省公表)。6月の9・90%から1・23%しか増えていません。現行の健康保険証利用は88・87%です。

健康保険証は常に持ち歩きたいものです。他方、マイナンバーは税と社会保障、災害に向けてデジタル化を進めるツールであり、その個人情報とつながるカードを常に持ち歩くことに不安もあります。また、「マイナ保険証」が使いにくい状態になる不安を考えれば、誰もが利用しやすい医療保険制度を守るために取り組みます。

千葉 地引網を開催

事務局長 田中久弥



7月20日の猛暑の中、九十九里浜の網元「かね仙」で地引網が開催されました。

JAM東京千葉のファミリーフェスティバルに、JAM千葉シニアクラブから会員など7人が参加し、現役の家族連れ参加者約200人と交流を深めました。

ファミリーフェスティバルは、もともとゼンキン連合千葉が1996年から同会場で開催して以来毎年好評を博し、JAM千葉結成以降もずっと伝統行事として開催されてきました。

当日は、最初に大広間で開会式が行われ、和田執行委員長から日頃のJAM活動へのお礼と来年実施される参院選での「郡山りょう」に対する支援のお願いがありました。

その後海岸での地引網は、当初波が高く実施が危ぶまれましたが何とか実施され、タイ、アジ、イワシ、コハダなど沢山の魚が入り、網が近くになると魚が飛び跳ね子供たちは大はしゃぎしていました。

地引網の後は子どもスイカ割大会を海岸で行い、昼食懇親会に移りました。揚げたての天ぷらや生きの良い刺身、更に単組OBが機材と食材を全て自前で現地を持ち込み作ったカレーなど沢山の美味しい料理を堪能、最後に大抽選会を行い、大変暑い中でしたが有意義な1日を終了しました。

こおりやま **郡山りょう**

◆郡山りょう3つの政策
「ものづくり」「中小」を基盤とした
くにづくり
公正で安心できる
価値を認めあう社会
働く者の尊厳を守る
ワークルール

こおりやま **郡山りょう**

◆郡山りょうの政策
工場暑くて大変ですよね。各種支援やルール作りで快適な職場づくりをサポートします!
現場の声ではたらくを変えよう

詳しくはこちらから

空調設備の設置、屋根外壁などへの遮熱・反射

ものづくり現場からの人材流出を防ぎたいと
思っています